

新 情報Ⅱ	旧 社会と情報	旧 情報の科学
<p>(1) 情報社会の進展と情報技術 情報技術の発展による人や社会への影響に着目。 情報社会の進展と情報技術との関係を歴史的に捉え、将来を展望する活動。</p>		
<p>ア (ア) 情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展について理解する。 (イ) 情報技術の発展によるコミュニケーションの多様化について理解する。 (ウ) 情報技術の発展による人の知的活動への影響について理解する。</p>	<p>(2) ア コミュニケーション手段の発達 (2) ア コミュニケーション手段の発達</p>	<p>(4) ア 社会の情報化と人間</p>
<p>イ (ア) 情報技術の発展や情報社会の進展を踏まえ、将来の情報技術と情報社会の在り方について考察する。 (イ) コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツの創造と活用の意義について考察する。 (ウ) 人の知的活動が変化する社会における情報システムの創造やデータ活用の意義について考察する。</p>	<p>(2) ア コミュニケーション手段の発達 (3) ウ 情報社会における法と個人の責任</p>	<p>(4) ウ 情報社会の発展と情報技術 (4) ア 社会の情報化と人間</p>
<p>(2) コミュニケーションとコンテンツ 多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性に着目。 目的や状況に応じた情報デザインに配慮。 文字、音声、静止画、動画を組み合わせたコンテンツの協働制作。 様々な手段で発信する活動。</p>		
<p>ア (ア) 多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性との関係について理解する。 (イ) 文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツ制作の技能を身に付ける。 (ウ) コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解する。</p>	<p>(1) ア 情報とメディアの特徴 (1) ウ 情報の表現と伝達</p>	
<p>イ (ア) 目的や状況に応じてコミュニケーションの形態を考える。 (イ) 情報デザインに配慮してコンテンツを制作し、評価、改善する。 (ウ) コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考える。 発信の手段やコンテンツを評価し改善する。</p>	<p>(1) ウ 情報の表現と伝達</p>	
<p>(3) 情報とデータサイエンス 多様かつ大量のデータを活用することの有用性に着目。 データサイエンスの手法によりデータを分析。 その結果を読み取り解釈する活動。</p>		
<p>ア (ア) 多様かつ大量のデータの存在やデータ活用の有用性、データサイエンスが社会に果たす役割について理解する。 (イ) 目的に応じた適切なデータの収集や整理、整形について理解し技能を身に付ける。 (ウ) データに基づく現象のモデル化やデータの処理を行い解釈・表現する方法について理解し技能を身に付ける。</p>		<p>(3) イ 情報の蓄積・管理とデータベース (2) ウ モデル化とシミュレーション (3) ウ 問題解決の評価と改善</p>
<p>イ (ア) 目的に応じて、適切なデータを収集し、整理し、整形する。 (イ) 将来の現象を予測したり、複数の現象間の関連を明らかにしたりするために、適切なモデル化や処理、解釈・表現を行う。 (ウ) モデルやデータ処理の結果を評価し、モデル化や処理、解釈・表現の方法を改善する。</p>		<p>(3) イ 情報の蓄積・管理とデータベース (2) ウ モデル化とシミュレーション (3) ウ 問題解決の評価と改善</p>
<p>(4) 情報システムとプログラミング 情報システムの在り方や社会生活に及ぼす影響、情報の流れや処理の仕組みに着目。 情報システムを協働して開発する活動。</p>		
<p>ア (ア) 情報システムにおける、情報の流れや処理の仕組みについて理解する。 (イ) 情報セキュリティを確保する方法や技術について理解する。 (ウ) 情報システムの設計を表記する方法、設計、実装、テスト、運用等のソフトウェア開発のプロセスについて理解する。 プロジェクト・マネジメントについて理解する。 (ウ) 情報システムを構成するプログラムを制作する方法について理解し技能を身に付ける。</p>	<p>(4) ア 社会における情報システム (2) イ 情報通信ネットワークの仕組み (3) イ 情報セキュリティの確保</p>	<p>(1) ウ 情報システムの働きと提供するサービス (4) イ 情報社会の安全と情報技術 (3) ウ 問題解決の評価と改善 (2) イ 問題の解決と処理手順の自動化</p>
<p>イ (ア) 情報システム及びそれによって提供されるサービスについて、その在り方や社会に果たす役割と及ぼす影響について考察する。 (イ) 情報システムをいくつかの機能単位に分割して制作し統合するなど 開発の効率や運用の利便性などに配慮して設計する。 (ウ) 情報システムを構成するプログラムを制作し、過程を評価し改善する。</p>	<p>(4) ア 社会における情報システム (3) ア 情報化が社会に及ぼす影響と課題 (4) イ 情報システムと人間</p>	<p>(4) ア 社会の情報化と人間 (3) ア 情報通信ネットワークと問題解決 (2) イ 問題の解決と処理手順の自動化</p>
<p>(5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究 「情報Ⅰ」及び「情報Ⅱ」で身に付けた資質・能力の総合的な活用。 情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する活動。 新たな価値の創造。 情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する資質・能力を高める。</p>	<p>(4) ウ 情報社会における問題の解決</p>	<p>(2) ア 問題解決の基本的な考え方 (4) ウ 情報社会の発展と情報技術</p>